

ほっぺもん

175 ひったまがった!



薩摩郷句

兼題「奉っ」

実家へ帰つ祖父さんが膝を奪こ双子

(唱) 大変な事じゃち 祖父さんも疲れつ

北村 虎王

奪た着物ごろいと着らし虫が食つ

(唱) 逝た母さんも 悲し事じやる

諸木 小春

下戸じゃつて銘柄ち聞たや奪つ買つ

(唱) 飾つちよつとが 楽しとじやるで

高辻 満夫

バーゲンぬ奪ちよい女房ん恥ね所作

(唱) 見ちよなららんち 亭主じゃひん逃けつ

西ノ園ひらり

遺産ぬば奪つ取ゆすい醜ぎ家族

(唱) 狡じ奴ばつかい 良揃たもんじや

二見愚楽満

大崎短歌会

瓦礫の中たくましく活きる松一本老いたる吾の血も甦る

児玉 チズ

酔芙蓉空いつばいに揺れる枝送り上げたし被災の友に

馬場みさ子

子供らの卒業記念山茶花はひとりの家を明るく照らす

大和てるみ

先代の手になるケラマたくましく友よりのツツジと枝を組み合おう

行騰 泰子

氏神の傍えの大木キハダの木皮は煎じて万能薬に

中崎はなえ

大崎俳句会

侘び住ひ芋の煮メや早夕餉

折田 スズ

日向ぼこ子猫じゃれ合ひ仁王立ち

宮脇 洋子

冬日和道に出でけり外れ猿

内村恵美子

椋鳥の大群となり山揺らす

坂元つる子

実椿を拾ふ子の島火山灰ぐもり

益倉 睦美

安らけく両手につつむぬくめ酒

宮下 のし

長き夜の昭和時代の曲流れ

町田ヤス子



無病息災を願って

今月の表紙

元日、初詣客でにぎわう都萬神社境内で豊栄の舞が奉納されました。初詣に訪れた人々は、巫女たちの優雅な舞に新春の幕開けを感じながら、無病息災や家内安全を願っていました。

人権啓発シリーズ⑳

あなたの当たり前が、誰かを傷つけているかも。

～ハンセン病と人権について考えるための『気付き』のヒント～

- 事実として認識していれば、それで充分である。
- そっとしておいた方がいい。
- もう終わった過去の人権問題である。
- なぜ、子どもたちに教える必要があるのか分からない。

なぜハンセン病であった方々等が偏見・差別を受けてきたのか、ハンセン病問題について正しく理解することが問題解決の第一歩です。

この問題を風化させず、次世代に伝えていくために、私たちは何をすべきかを考えてみましょう。